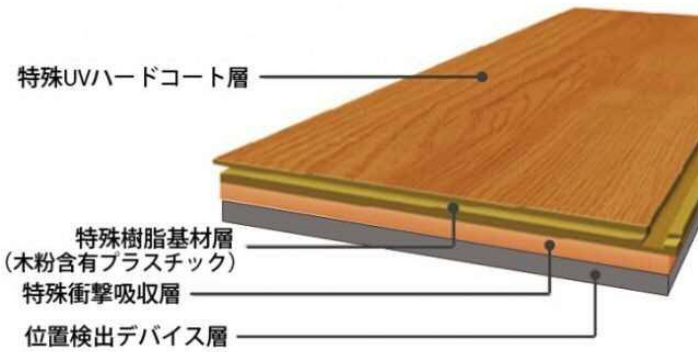


## IoT建材事業に着手 第1弾「ロケーションフロア」発売



凸版印刷は、従来展開してきた建築材に各種センサーなどIoT機器を組み合わせることで、居住者の見守りや健康管理など社会課題解決に貢献する新たな建築材を提供する「トッパンIoT建材」事業に着手すると発表した。

同事業の製品化第1弾として、床材と圧力センサーを組み合わせることで位置検出を可能とする「ロケーションフロア」を開発し、12月から不動産事業者、住宅メーカー、医療・介護業界、自治体などに向け、本格的な販売を開始する。

「ロケーションフロア」は、床材と一体化したセンサーによる居住者のさりげない見守りが可能。センサーが踏まれた圧力で自己発電するため、特別な配線工事などが不要で通常の床材と同様に施工できるため、短納期・低コストで利用できる。価格は約25万円～。

情報提供: 新建ハウジング

## 窓・ドアのIoTでカギの締め忘れをスマホに通知

YKK APは、毎日のお出かけの際の窓・ドアのカギの締め忘れを防止する、戸締り安心システム「ミモット」を2019年1月から発売。

今回発売する戸締り安心システム「ミモット」は、窓・ドアのセンサーとスマートフォンをつなぎ、玄関を出て外出した直後に窓のカギの締め忘れを通知する、窓・ドアのIoT商品。

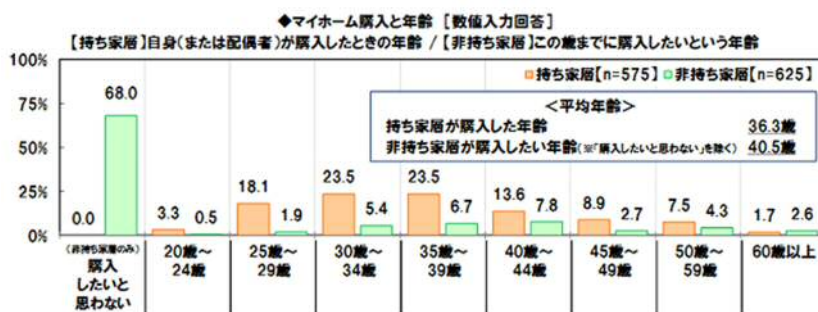
窓のカギに内蔵されたセンサーは、使用者のカギの操作(施錠)により発電・通信を行う技術を活用しており、電池などの電源や配線が不要です(特許出願中)。そのため、センサーの設置も、窓のカギを一般品から取替えるだけの簡単取付けです。

このセンサーと玄関ドアの電気錠(スマートコントロールキー)を組み合わせることで、玄関ドアの施錠を行った際に、カギを締め忘れた窓をスマートフォンに通知、外出先での不安を無くすことができます。(※本サービスは利用契約が必要) また、スマートフォンのGPS機能を活用した機能や、お子様などの帰宅が通知される見守り機能も利用可能です。

情報提供: YKK AP



## 非持ち家居住者の7割が「マイホーム購入したいと思わない」



「購入したいと思わない」は68.0%だった。

「人生100年時代」を迎えるにあたって不安を感じることを聞いたところ、「老後の生活設計」(60.4%)が最も多く、「自身の健康」(57.2%)、「家族の健康」(44.8%)が続いた。「住まいにかかる費用、住まいのあり方(住む場所や住居形態など)」は41.3%で、住宅関連の費用負担が大きい30代では52.0%となった。

情報提供: 新建ハウジング

NPO法人日本FP協会はこのほど、全国の20代～70代の男女を対象に実施した「世代別比較くらしとお金に関する調査2018」(有効サンプル=1200人)の調査結果を発表した。それによると、現在の住まいが持ち家ではない人に、マイホームを購入したい年齢を聞いたところ、「35歳～39歳」(6.7%)、「40歳～44歳」(7.8%)に回答が集中。平均年齢は40.5歳だった。